

---

# 2人の思い出

a n g e l

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

2人の思い出

### 【Nコード】

N4332F

### 【作者名】

angel

### 【あらすじ】

新一と蘭は幼稚園の入園式に行っていた。そのとき大人っぽい雰囲気を出す女の子がいて・・・園子と蘭の出会いのお話です！！

園子と蘭が出会ったとき・・・

それは幼稚園に入ったところのことだった。

その日は入園式に新一と2人で登園していた。

「きょういくとこつてどんなところかなー、ねえ、しんいちくん」

「たのしいんじゃないかなー。ぼくはたのしみだよ」

2人は和やかにそういう話をしていた。後ろでは英理、小五郎、有紀子、優作が2人を見て笑っていた。

正門をくぐってとうとう園内に入った。蘭はそこで、明らかに金持ちそうな女のこに出会った。その子の名前は分からなかったが、とても3歳とは思えなかった。

蘭はその子を追いかけることに決め、新一に声をかけた。

「しんいちくん、あのこおいかけようよ！」

新一はすぐに蘭の手をとって走り出した。

「しんいちくん、どうしたの？」

「おいかけるんでしょ、はやくいかないとかあさんたちにばれちゃ

う」

「ふーん。じゃ、みえないとこまでいこうか」

そして2人はとうとう校舎内に入った。そのときも手は絶対に話さなかった。見てみるとその子は園長先生に連れられてVIP待遇されていた。

「あのこ、すごいこなんだね」

2人は納得したのか仲良く親の元へ帰っていった。

入園式の時間になると子供たちは体育館に入っていた。中は広く園児も多かった。その上静かだった。

その空気に吞まれて、中には泣き出す園児もいたが、たいていは落ち着いて出来た。

その子は真剣に話を聞くうちの一人だった。

クラスは2人とも“ひまわり組”だった。  
その子も同じだった。

その日早速触れ合いタイムみたいなものが行われた。  
蘭と新一はその子に近づいていった。  
そして蘭が声をかけた。

「ねえ、わたし“らん”っていうの。となりのこは“しんいちくん”。わたしと“おともだち”になろう？」

蘭は小さいながらも聞こえるように言った。

その子は笑って答えた。

「“らんちゃん”っていうの？わたしは“そのこ”っていうの。よろしくね！」

その返事を聞いて蘭は言った。

「しんいちくんも、そのこちゃんもだいすきだよ！」

その日が出会った日であり、友達になった日でもあったのだった。

その13年後の始業式の日、蘭は桜散る中でこういった。

「新一も園子も大好き!!」

3人ともこの言葉は忘れていたが、とても懐かしい感じがした。

（後書き）

今まで、また会える日までの投稿が滞っている間、ハロウィンパーティのほかにこれを作ってたんです！！

園子と蘭の出会いってよく考えたらいつなんだ？って思ってた・幼稚園の感じがだせてたらしいなあ・・・  
園子はお金持ちだから、おとなしく見えるだろうってのがあってこんなキャラに・・・

注意に近いんですが、これは新一も園子に会ったのは初めてですが、どっちかって言うと蘭と園子だけのほうがしっくりきたのでタイトルは2人となっています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4332f/>

---

2人の思い出

2010年12月15日03時00分発行